

滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1番1号 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会 発行責任者／戸田 茂
URL: <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

目次	経済学部の教育研究について・・・1～2	国際交流・・・・・・・・・・・・・・3～5
	データサイエンス学部の	ゼミナール紹介・・・・・・・・・・・・5～7
	・教育研究について・・・2～3	先輩からの激励メッセージ・・・・7
	学生活動だより・・・・・・・・・・・・3	資格取得等報奨制度・受給者の声・・・8

経済学部の教育研究について

経済学部長 中野 桂



新型コロナウイルス感染症の蔓延も3年目になり、学生も教員もオンライン授業等に慣れてきました。経済学部は原則対面授業（オンライン授業との併用を含む）を行うものとし、特に新入生のキャンパス内での学修機会の確保に努めています。

さて、経済学部では、2017年度よりデータサイエンス副専攻（政策・ビジネス革新創出人材）プログラムを本格的に開始し、履修者数も順調に増加してきています。データサイエンス副専攻については、2023年度からデータサイエンス・コースとして内容も規模も拡充していく予定にしています。

本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムは文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」に選定されました（2021年度）。これに

より、すべての学生に各学部に応じた科目（経済学部の場合は「データサイエンスへの招待」）を履修し、単位取得することが要件として課せられました。また、2022年度は、同プログラムの応用基礎レベルに申請し、データサイエンス教育の拡充に努めま

す。また、もう一つの特徴あるプログラムとして、共創グローバル人材育成プログラムがあります。新型コロナウイルスの影響で海外留学・研修に困難は生じていますが、2021年度は第8期生32名が入学し、2021年3月には第4期生13名がコース修了認定をうけて卒業していきま

す。経済学部では、共創グローバル人材育成プログラムに属さない学生も含めた英語力強化のための取り組みもおこなっています。まず、1年次と3年次の学生を主たる対象としてTOEIC IIPテストを大学内で実施しています。2年次や4年次以降の学生も希望すれば受験することができます。また併せて、2021年度はプロジェクト科目形式でTOEIC対策講座を2クラス開講しました。受講生の大半がスコアアップし、800点以上になった学生もいました。このほかにも、英語による専門科目の開講も行っています。

そのほか、地域で活躍する人材を育成するための取り組みとして、地域連携教育推進室によるプ

ロジェクト科目が提供されています。例えば、2021年度秋学期に提供された企業連携プロジェクト2021秋「高校生の地域活性化アイデアをカタチに」は、平和堂・キリンビール・ブリヂストンと滋賀大学との連携協定に基づき、産学連携プログラムとして実施し、データサイエンス学部・経済学部の学生らが履修しました。

経済学部では専門性を高めるためにさまざまな工夫もしていません。例えば、後援会のご協力も得ながら、証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー、公認会計士など、ファイナンス、経営、会計、経済に加え法律分野等の専門知識の獲得が必要とされる資格取得に向けた学生の取り組みを支援する仕組みを作っています。

大学院経済学研究科については、2021年度は前期課程25名、後期課程3名の入学がありました。2022年度の入学者については、新型コロナウイルスの影響もあり前期課程では定員の確保に苦慮しています。博士後期課程については6名の入学が予定されています。

特筆すべきは、1年制社会人コース（ビジネス・データサイエンス専修プログラム）が2022年度よりスタートすることです。これは、企業などにおける経験を前提に、事前学習と組み合わせることにより、1年間でビジネス・データサイエンスについて学び、

修了できるコースです。ビジネス分野におけるデータサイエンスの導入は目覚ましいものがありますので、今後のリカレント教育としてますます注目されることと思えます。

さて、経済学部は2023年度に彦根高等商業学校の創立から数えて100周年を迎えます。これまで多くの若者が滋賀大学経済学部を志望し、学び、そして巣立っていきました。ご存知のように、経済学部の卒業生は実業界を中心として評価が高く、就職の実績も目覚ましいものがあります。

一方で、この100年間に変化もありました。例えば30年ほど前までにはほとんどいなかった女子学生が現在では30%を超えるまでになっていきます。高度経済成長期以降の産業構造の変化やさらには近年のIT革命によって学生の就職先にも変化が出てきています。経済社会のこうした変化にもかかわらず、滋賀大学経済学部の卒業生が高い社会的ニーズに応えることができているのは、経済学部がこれまで行ってきた柔軟で幅広い教育プログラムによるものと考えます。次の100年に向けて、今後も社会の変化に対応のできる、質の高い教育の提供を行ってまいります。



データサイエンス学部の教育研究について

データサイエンス学部長

竹村 彰 通



データサイエンス学部は昨年3月に一期生が卒業し、学部の完成しました。同時に、

に大学院修士課程（博士前期課程）の一期生も卒業しました。学部一期生の就職状況は大変順調でした。また一期生のうち約2割は大学院修士課程に進学しました。このようにデータサイエンス学部は一つの節目を迎えましたが、本学部に対する注目は相変わらず高く、学部はますます発展しています。ここでは、最近のデータサイエンス学部および大学院の現状、そして企業との連携についてお知らせします。

2021年度もデータサイエンス学部の教育はコロナ禍の影響を大きく受けました。しかしながら今年度はキャンパスの入構制限までには至らず、データサイエンス学部の講義は対面及びオンライン同時配信のハイブリッド型でおこなわれました。教員も学生もハイブリッド型の講義

にすっかり慣れてきました。対面、オンライン、それぞれに長所がありますので、このようなハイブリッド型の講義のメリットは大きく、今後とも定着していくと思われまます。

学部の教育では、新しいカリキュラムが本年度（2021年度）から実施されました。具体的にはAIへの傾斜をより深め、機械学習科目とPython(2)科目の開始セメスターの前倒しを行い、さらにマルチメディアデータの入門科目の新設、画像認識や音声認識と対話システムの応用科目の新設を行いました。来年度はさらに人工知能と因果分析の応用科目の新設を行い、AI時代への備えを万全にします。

それ以外の骨格はあまり変わらず、1回生で「計算機利用基礎」や「解析学への招待」といった科目により本学部で必要とされる基礎的な能力を形成し、2回生では「データサイエンスフィールドワーク演習」等で実際にデータ分析を行います。3回生は研究室（ゼミ）へ配属され、大学が連携する企業や官公庁等のデータを扱いながら、主体的な課題の発見及び解決に取り組んでいます。4回生は学部の教育の集大成として卒業レポートに取り組んでいます。細かいことですが、履修人数制限のある科目（抽選科目）をなるべく減らす努力もしています。また、学生の利便を図るために、統計検定のCBT試験を大学内で受験できる体制も構築しました。

ところで、文科省は、文理を問わ

ず全ての大学生にデータサイエンスやAIの基礎を習得させることを目標として、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシールレベル）」を開始しました。本学はデータサイエンスの全学教育が評価され、初年度の優れた取り組み認定11校の1つに選ばれました。

次に、大学院データサイエンス研究科では、AI技術によりDXを推進し、社会的課題の解決に貢献する人材の育成を目指しています。社会人学生も多く、その業種も多岐にわたり、大学院は、社会人学生と一般学生の人脈開拓や異業種交流の場としても機能しています。さらに2022年1月には、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」拠点校にも選定されました。拠点校のミッションは、数理・データサイエンス・AI教育を全国の大学等に普及させるとともに、国際競争力のある博士課程教育を行い、当該分野を牽引する人材を養成することです。引き続き、社会で即戦力となるデータサイエンス・AIの育成を推し進めていきます。

最後に、本学の企業連携への学生諸君の参加について紹介します。昨年度から開催している滋賀大学データサイエンス連携コンソーシアム交流会では、本学と共同研究などで連携している企業と本学教員、そして学生諸君のデータサイエンスに関する研究、及び活用事例に関し情報交換を行っています。昨年は、在学中

にデータサイエンス活用分野で起業した学生の発表、そして卒業研究の発表を行いました。今年度は7月に、第一期卒業生の中から、就職した学生からは4カ月目の視点でデータサイエンス学部での学びや配属先の業務について、大学院に進学した学生からは卒業論文発表特別セッションで発表された卒業論文について発表されました。参加された企業の方より「入社後すぐにも関わらず発表内容が充実していて感心した」「データサイエンス学部のカリキュラムが、新入社員でも即戦力として活躍できるものになっている証左だ」という評価が聴かれました。この交流会は今後も年に4回程度開催します。

学生活動だより

滋賀大学学長賞について

令和3年10月25日、11月18日に彦根キャンパス学長室において、令和3年度滋賀大学学長賞授与式を挙行しました。

滋賀大学学長賞とは、①「極めて優秀な学業成績を挙げ、高い評価を受けた学生」②「課外活動や、文化・社会活動などで特に顕著な成果・功績のあった学生・団体」を表彰するものです。

授与式では、学生支援課長より選考結果の概要について説明があり、位田学長から受賞者に表彰状と盾、副賞が授与されました。授与の後、学長から祝辞があり、受賞者から謝辞が述べられました。いずれも滋賀大学の名誉を大いに高めた功績を称えられました。

各受賞団体等と受賞理由については以下のとおりです。

学生広報サポートチーム

学生目線での企画を自分たちで考え、実行に移し、大学の広報活動に多大な貢献を果たしたものです。

データサイエンス学部

山崎大輔、藤田翔大、能勢龍嗣

第10回スポーツデータ

解析コンペティション

フェンシング部門 入賞

(日本統計学会)

スポーツ統計分科会主催)



受賞を受けた学生の皆さん

学生広報サポートチーム紹介

本学では2018年に「学生広報サポートチーム」を結成し、活動をスタートしました。学生広報サポートチームとは、大学広報に学生の視点を取り入れることで広報活動を充実させ、滋賀大学の活動状況を学内外に広く知ってもらうことを目的としている団体です。3月現在、学部学年を問わず、14名のメンバーで活動しています。

活動内容としては、広報誌やオリジナルグッズの作成、卒業生や先生へ取材を行い大学の魅力を発信しています。こうした広報活動が認められ、2021年度には「学生目線の企画を自分たちで考え、実行に移し、大学の広報活動に多大な貢献」として学長賞を受賞することができました。

メンバー紹介 (令和4年3月現在)

経済学部
小野愛理、谷村真菜、當麻友規、小林正章、平下怜良

データサイエンス学部
細川寛司、小村悠祐

教育学部

乾幸太郎、古田莉子、佐山結香、高槻官汰、島津心暖、福田溪華、大泉まどか



メンバーからのメッセージ

経済学部2回生 平下 怜良



学生広報に求められていることは、学生としての当事者意識を持ちながら、「自分ならどんな情報を発信してほしいか」を考え、実際に行動に移していくことです。日本人は「モノづくり」は上手ですが、「コトづくり」は苦手といわれます。広報はまさに「コトづくり」の最たるものだと思います。活動を共にするメンバーは、「企画やデザインが得意」「情報発信が得意」とそれぞれ魅力的な個性を持っていきます。そういったメンバーと共に活動することで、自分の未経験の分野に触れ、「コトづくり」のスキル向上や楽しさを実感する刺激的な日々を過ごしています。

今後はSNSなどを有効活用し、より充実した広報アプローチを展開するとともに、様々な分野の情報発信を意識し、1人でも多くの人に滋賀大学の魅力が伝わるよう活動していきたいと考えています。

国際交流

海外留学は、語学力や専門性を伸ばすだけでなく、異文化で生活し、現地の人々や学生、さまざまな

国からやってきた留学生と直接交流することを通して、これまでの自分の考え方や価値観を再検討し、視野が広がり、人間的にも成長する貴重な機会となります。

滋賀大学は、世界14の国と地域にある22大学及び1コンソーシアム(大学連合)と全学レベルの学生交流協定(交換留学)を締結しています。この協定に基づき、滋賀大学と相手方大学との間で学部生及び大学院生の派遣、受入れを相互に行う交換留学が行われています。

この交換留学制度による留学の応募要件は、本学第2年次以上に在籍し、学業成績が良好であり、かつ、健康な者です。留学期間は最長1年以内で、留学期間中の授業料は本学に納入し、留学先大学での授業料は免除されます。また、交換留学制度で留学した大学で修得した単位を、帰国後に本学での単位として認定を願うことも可能です。2021年度は2名の学生がゾイド大学(オランダ)に交換留学制度により留学しています。

また、夏季休業期間等を利用して、短期間に目的意識をもって異文化を体験できる海外研修のプログラムを実施しています。単に海外の大学で授業を受けるだけでなく、現地で生活し地元の人々や文化に触れることによって、日本の生活では得られない体験ができるようになっていきます。また、研修を修了すると、

「海外研修」として単位認定されます。なお、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりプログラムを中止しています。

世界では、依然として新型コロナウイルスが猛威を振るっており、人々の国際流動性が低い状況です。海外渡航に関しては、外務省海外安全情報では世界の殆どの国・地域で「レベル3」「レベル2」であり、大学として留学を認める「レベル1」にはなっていません。このような状況でまだまだ留学が再開できる見通しは立ちませんが、留学再開までに、更なる語学力の向上、スコアアップを目指してもらうため、語学検定試験受験料支援の充実を図っています。また、滋賀大学では、国内連携機関(CIEE京都)と共同して国内留学も実施しています(「Study Abroad in Kyoto」)。語学検定試験受験料支援と国内留学については次項でご紹介します。

語学検定試験受験料支援について

海外留学に必要なことの一つに、語学力があります。交換留学の派遣基準や受入れ大学にて多くの場合、語学力の基準が定められたりしています。その語学力の証明には、指定されている語学検定試験等の成績(スコア)が必要となります。そのためには各種語学検定試験を受験しなければなりません。その受験料は決して安いものではありません。

主な協定大学一覧	
大学名	国・地域
ミシガン州立大学連合	アメリカ合衆国
ディーキン大学	オーストラリア
シドニー工科大学	オーストラリア
チェンマイ・ラジャパット大学	タイ
東北財経大学	中国
グアナファト大学	メキシコ
国立高雄大学	台湾
啓明大学	韓国
サウスイーストノルウェー大学	ノルウェー
ゾイド大学	オランダ
西部カトリック大学	フランス
国立台中科技大學	台湾

海外研修プログラム一覧	
プログラム名	大学名
アメリカ語学研修	ミシガン州立大学
オーストラリア研究	ディーキン大学
中国語学研修	東北財経大学
メキシコ語学・文化研修	グアナファト大学
韓国語・文化研修	啓明大学
イギリス研修	リーズトリニティ大学
フランス語学文化研修	西部カトリック大学

そこで、留学に際して必要な語学検定試験(TOEFL・IELTS・HSK・仏検等)を受験する本学学生を対象に「国立大学法人滋賀大学基金による語学検定試験受験料支援」を実施しています。

国内留学について

新型コロナウイルス感染症の影響により、長期休暇中の海外研修や海外留学等が実施できないため、滋賀大学と協力協定を締結しているCIEE京都と共同で日本にいながら英語で講義を受けることのできる約2週間のウインターセミナー「Study Abroad in Kyoto」を実施しました。(セッション1…令和4年2月14日～3月1日、セッション2…令和4年3月3日～3月18日)

セミナーは「Peace & Conflict Resolution - Japan in an East Asian Context」, 「Getting to Know Your Neighbor - Korea: North & South」のテーマでオンライン及び対面により実施されました。

「グローバルプラザ彦根」の開所式を開催

令和4年1月20日(木)に彦根キャンパス校舎棟1階で「グローバルプラザ彦根」の開所式を開催しました。

「グローバルプラザ彦根」は留学生と日本人学生の交流の活性化を図り、様々な国際経験・異なる価値観に触れる機会を増加させることにより、学生の国際交流への関心や国際感覚を醸成する交流拠点とすることを目的として開所されました。

開所式では、位田学長、小倉国際交流機構長による除幕式が行われ、続いて学長からの挨拶がありました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて一部プログラムを変更し、留学生が参加できませんでしたが、今後留学生と日本人学生が交流する場として活用されます。



除幕式



グローバルプラザ彦根全体風景

ゼミナール紹介

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、経済学部は「専門演習Ⅰ～Ⅳ」、データサイエンス学部は「実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ」「上級実践価値創造卒業演習Ⅰ・Ⅱ」といった一連の4つの授業科目を意味し、これらの科目は、2回生の後半に各学生の選択希望に基づき、受講クラスが決定されます。3回生春学期から授業が始まり、以後継続して4回生秋学期までの4セメスター連続して履修することになります。

ゼミは、2年間、同一のクラスで同一の教員が担当し、経済学部では、担当教員の専門分野の学問的内容について、受講生の学習・研究を指導することになっています。データサイエンス学部では、企業等と連携し、課題解決や価値創造を試みるために収集したデータのチェックを行い、データを分析し、得られた結果を考察し、問題解決を提案することを目的としています。

ゼミは少人数教育の授業科目ですが、クラスでの研究報告、発表を担当することで主体的な学力とプレゼン能力が養われます。また、クラス内での議論や共同研究、報告の準備作業、ゼミ生間の日常の交流などを通じて、論理面だけでなく総合的なコミュニケーション能力や人間関係を形成する力も培われます。それゆえ、ゼミは大学4年間の後半に配置されている主要な授業科目であり、専門教育としてだけでなく、ゼミ担当教員が学生生活や進路の相談、指導を行うことで、学生指導の面からも総合的に重要な役割を果たしています。

澤木ゼミナール

経済学部教授 澤木 聖子

滋賀大学に着任して二五年が経ちました。学部・大学院を合せれば、五百名近くの担当学生との邂逅がありました。ゼミの活動単位である「専門演習」では、長年に

わたり大事にしてきたことがありますが。それは、ゼミ生に「画一性」や「同質性」を求めないことです。私のゼミには、履修単位数が倍近く異なる学生、編入生、留学生、夜間生の学生、入試形態も異なる様々な学生がいます。所属する学生団体も、体育会系、文化系ともに多く、学費や生活費を工面するためやむなくアルバイトに勤む学生もいます。学生の進路も、民間企業や公務員への就職のほか、起業、進学、計画留年をしてギャップ・イヤーを体験するなど様々です。これまでの教員生活の中では、大学生活に適応できずに苦しむ学生にも多く出逢いました。大学生は自律的に行動することが求められる「学生」であり、高校までの「生徒」ではないことを自覚してもらうことも必要だと思います。この数年は自身の判断に迷



2019年度 陵水ゼミナール支援制度による
企業見学

い、カウンセリングを求めてくるゼミ生も増えたように感じます。



今年度受賞したチーム（後段）と
ゼミの仲間たち

これまで、私のゼミでは、学生のみなさんに、自律的に行動する「場」を提供することに努めてきたつもりです。陵水会様のご支援を頂き、毎年テーマを設定して工場など企業見学を続けてきたこともその一環です。企業様には、学生が事前に予習をして質問集を提出し、訪問後は感想集を編集してお礼状とともに送ります。例年参加する日本学生経済ゼミナールの研究発表大会では、部活やサークルの他流試合を「学問」で行う経験をしてもらうため、複数チームに分かれてグループ・ワークを重ね、研究成果を競います。この2年間はZoomの影響でオンライン開催となりましたが、新しいツールに対する学生の適応力、関心を持った事に対する行動力は素

ゼミ生による過去6年の研究活動成果の受賞歴

優秀賞(2021年12月)日本学生経済ゼミナール インター大会決勝大会
優勝(2021年10月)日本学生経済ゼミナール インター大会「労働問題」分科会
優勝(2020年12月)インプレ2020 Inpre-2020 Beyond COVID-19決勝大会
特別賞(2020年12月)インプレ2020 Inpre-2020 Beyond COVID-19決勝大会
第3位(2020年10月)インプレ2020 Inpre-2020 Beyond COVID-19予選大会
優秀賞(2020年9月)経営学会同ゼミ合宿研究発表大会 幹事校 公立鳥取環境大学
優秀賞(2018年10月)日本学生経済ゼミナール インター大会「労働問題」分科会
優勝(2018年11月)日本学生経済ゼミナール 関西ブロックインター大会決勝
第3位(2018年度10月)日本学生経済ゼミナール インター大会「労働問題」分科会
優秀賞(2018年9月)経営学会同ゼミ合宿研究発表大会 幹事校 中央大学
優秀賞(2017年12月)日本学生経済ゼミナール インター大会決勝
優勝(2017年11月)日本学生経済ゼミナール インター大会「労働問題」分科会
優良賞(2017年9月)経営学会同ゼミ合宿研究発表大会 幹事校 滋賀大学
優勝(2016年11月)日本学生経済ゼミナール 関西ブロック大会「労務管理」部門
優良賞(2016年9月)経営学会同ゼミ合宿研究発表大会 幹事校 成城大学

晴らしいものがあり、成果を上げながら成就感や悔しさを体感してもらうことができています。

ゼミ生にとり、多様な背景の学生たちが同じゼミの中で一つの目的に向かうことは容易なことではないはず。人は、共通点の多い似た者同士で過ごす方が心地よく、一般的には効率的に作業が進むとも考えられます。私自身、ゼミの研究発表大会に向けた課外活動の指導については、心血注いで向き合ってきたという自負がある分、年々体力的に弱気になると、正直なところ、成績や優秀な条件でゼミ生を選ぶ教員の方法は、学生のためにも良いのか、と考えたりします。しかし、私が至らないところは、上回生や社会人卒業生

が親身に支援してくれる関係性が築けており、縦系横系が織りなすゼミ生の学縁の拡がりを有り難いことだと感じています。今まで以上に増して、価値観や背景の異なる人々との協働が不可欠になることが予想される世界の中、結局私は学生に「厳しい・うるさい」と疎まれながらも、ゼミ生に教えられるながらゼミと向き合っていくのだと思います。

佐藤ゼミナール

データサイエンス学部教授

佐藤 智 和

VR型防災教育システムの開発

佐藤ゼミでは、画像、映像をターゲットとした教育研究をしています。データサイエンスの分野において、画像、映像から得られる情報は多く、非常に重要な分析対象の1つとなつていきます。また逆に数値データを誰にでもわかりやすく提示する手段の一つとして、VR（バーチャルリアリティ）を用いた画像上への情報提示に関する研究開発も行っています。このようなゼミ活動の一環として、VR型防災教育システムの開発に取り組みしたのでご紹介いたします。なお、このプロジェクトは総務省戦略的情報通信研究開発推進事業の支援の下で実施したものです。

本研究で開発したVR型防災教育システムは、従来のVRを用いた防災教育システムの課題であったいくつかの問題解決に取り組んだものです。それらのなかでも重要な課題のひとつは、これまでのVRが、あくまで独自に作られた仮想世界での体験に留まっていたことに起因しています。すなわち、まったく見たことのない仮想世界で災害の仮想体験をしたとしても、実感がなく、あたかもゲームのような感覚でその体験をすることになってしまい、防災教育の効果が低減してしまうというものです。これは、VRにおける現実感、実在感、没入感などに関係しており、本研究ではこれを「いまここにいる感覚」、「いまここ感」と呼んでいます。いまここ感の高いVR防災教育システムを実現するには、一度実際の世界を仮想化してしまえばよいのですが、例えば自治体の防災訓練でこれを実行するには多大なコストがかかってしまいます。



「いまここにいる感覚」を体験

このような課題を解決すべく、本研究では360度を一度に撮影可能な市販の全方位カメラを使って、手軽に地域を三次元仮想化し、市販のVR機器を使っていまここ感を維持しながら防災コンテンツを体験できるシステムを開発しました。このシステムでは、全方位カメラを使ってターゲットとなる町内を歩きながら動画像として撮影するだけで、町内の様子を三次元仮想化することができます。本プロジェクトでは、実際に2017年に河川の氾濫による水害に見舞われた長浜市大井町自治会の皆様にご協力をいただき実験を行いました。実験では、大井町の撮影による三次元仮想化を行い、水害発生の際の浸水深のシミュレーションとVRコンテンツの作成、地域住民の皆さんを対象とした実証実験を実施しました。

実証実験では、地域の皆さんが見慣れた町内での程度の浸水が起こるのかをHMD（ヘッドマウントディスプレイ）を使って視覚的に体験してもらい、アンケート評価を行いました。その結果、「実際の現場にいる感覚があった」、「水位がイメージできた」、「危機意識が高まった」などの意見が得られ、実際に居住している地域を仮想化することで実現できるVR型防災教育システムの有効性を確認することができました。

メッセージを書かせていただくことになりまし。しかし困ったことに、ここに至るまでの葛藤や、苦勞を乗り越えたエピソードが全く思いつきません。これは、賛成も反対も



代表 井本望夢

合同会社 mitei



企画展チラシはコチラ

本研究プロジェクトで実施した研究内容は、現在滋賀大学彦根キャンパス士魂商才館のしがだい資料展示コーナーにおいて、企画展「いまここにいる感覚VR型防災教育システムの開発」として展示しております。展示は2022年6月30日までとなります。大学にお立ち寄りの際はご覧いただければ幸いです。

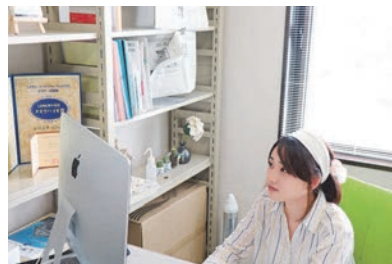
令和3年度滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会資格取得等報奨制度給付一覧

(令和2年4月~令和3年3月末日までの受理分)

分類	サポート対象事項	基準	報奨額(円)	給付件数	給付者氏名(敬称略) (回生は申請時)
資格試験・認定試験	1. 税理士試験 (申請は、基準(1)、(2)のいずれか1回に限る。)	(1)会計学に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	70,000	0	
		2科目同時合格者	100,000	2	・柴原歩美(経済学部4回生) ・榊原彬人(経済学部3回生)
		(2)税法に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	40,000	0	
	2. 公認会計士試験	「短答式試験」合格者	100,000	2	・高野 蒼(経済学部4回生) ・安達浩平(経済学部3回生)
		「論文式試験」合格者	50,000	1	・清澤英正(経済学部4回生)
	3. 日商簿記検定試験	「一級」合格者	50,000	1	・藤田浩人(経済学部2回生)
	4. 証券アナリスト試験	「第1次レベル試験」合格者	30,000	10	・LOH YI THUNG(経済学部3回生) ・野村晃洋(経済学部4回生) ・谷阪優一(経済学部3回生) ・林 巧大(経済学部3回生) ・大坪拓矢(経済学部3回生) ・及部大志(経済学部2回生) ・西崎 薫(DS学部3回生) 他3名
「第2次レベル試験」合格者		40,000	2	・岩永佳祐(経済学部4回生) ・山村 仁(経済学部3回生)	
5. データベーススペシャリスト試験	合格者	50,000	0		
6. 品質管理検定	「一級」合格者	50,000	0		
7. 統計検定「一級」	「統計数理」、「統計応用」のいずれか1科目合格者	50,000	0		
	2科目同時合格者	20,000	0		
留学試験	8. TOEIC(公開テスト)	800点以上	30,000	17	・中西航平(経済学部4回生) ・佐々木颯馬(経済学部4回生) ・梶本紗貴(経済学部4回生) ・森内玲於(経済学部4回生) ・呂 凌霄(経済学部4回生) ・坂本勇太(経済学部4回生) ・清水麻生(経済学部4回生) ・小島大空(経済学部4回生) ・田中拓希(経済学部4回生) ・髙部亮太(経済学部3回生) ・久松弘奈(経済学部3回生) ・田中優希奈(経済学部2回生) ・前田泰輝(DS学部3回生) 他4名
		900点以上	50,000	8	・菅 昌絵(経済学部3回生) ・西村太希(経済学部4回生) ・山脇祐太(経済学部3回生) ・田處真帆(経済学部3回生) ・西口芳孝(経済学部3回生) ・森本裕吉(経済学部3回生) ・竹内和也(経済学部1回生) 他1名
留学	9. 本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏	40,000	0	
		その他	80,000	0	
その他	10. スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体、又は、上記1~8に相当すると思われる事項		-	0	
計				43	

注) 1. 給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。

されなかつた周りの環境や楽観的な自分の性格が吉と出たのだろうと思つています。ただ、やりたいことは常に色々と抱えています。それに向かつてマイペースに今を生きることが、失敗したらどうしよう...「周りの反応は...」といったマイナスの感情に囚われず行動できる自由さに繋がっているのではないかと思っています。やりたいこと何でもよくて、「〇〇が買いたいからとにかく稼ごう」とか「〇〇ちゃん」と友達になりたいからあそこをバイトしよう」とか「石油王と結婚するためにアラビア語を習得しよう」とか、直近のことでも将来を見据えたことでもなんでも大丈夫。もし、その手段の一つとして起業を選ぶなら多少力になれるかもしれません。いつでも連絡待ってます。それ以外にも就活や受験など、様々なことに挑戦する皆様を応援しています。そして皆様に余裕がある時、私の活躍も見守っていただけると幸いです。



滋賀大彦根キャンパス内に設置された mitei オフィスにてデータ解析中!

資格取得等報奨制度

「後援会資格取得等報奨制度」は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体を報奨することにより、学生の日頃の勉学等を支援し、資質の向上に資することを目的として、平成26年10月に創設され、その後、データサイエンス学部の設置に伴い、対象試験等の一部を改正しました。

今年度（令和2年4月から令和3年3月受理分）は、表（前頁参照）の通り、43件に対して給付され、これまでの累計で360件（団体含む）が対象となりました。学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聴かれ、今後も、多くの学生諸君から応募していただけるよう願っています。

また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしていますが、保護者の皆さまにおかれましても、ご覧いただいた上で、お子様にお伝えただきたく存じます。

今後、より良き制度に改善して行きたいと考えておりますので、会員の皆さまからも是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。



報奨金受給者の声

『税理士試験
（簿記論・財務諸表論）合格』
経済学部ファイナンス学科4回生
榊原 彬 人



私は、令和2年度税理士試験の簿記論と財務諸表論に合格しました。

大学2年の9月から本格的に勉強をはじめ、大学3年の8月に受験し合格することが出来ました。

税理士を目指した理由としては、経営者の方とお話しできる機会が多いためだけでなく、経営の基盤として財務という方面から支えることができ、仕事に魅力を感じたためです。

滋賀大学は他の大学と比べ、学生が自由に使える時間が多い大学だと思います。私はその自由に使える時間を資格の取得のために使うという選択をしましたが、みなさんもその時間を部活であったり、ゼミ活動であったり、アルバイトや就活、もしくは遊びでも構わないと思います。なにかに全力で取り組む時間に使ってみて欲しいです。

私は試験が終わった直後、「落ちたかもな。」という感覚とともに「1年間やりきって良かったな。」という感覚があったことを覚えていきます。

税理士試験は、5科目で合格です。で、まだまだスタート地点に立てた程度ですが、税理士として活躍していくため、より一層努力していきたいと思えます。

最後になりますが、違った形ではあったけれど共に努力しモチベーションとなってくれた同期のみなさん、先輩や後輩の方々、関わってくれた先生方に心から感謝申し上げます。

『公認会計士試験
短答式試験・論文式試験合格』
経済学部経済学科4回生

安達 浩平



私は右記のこれらの試験に合格しました。来年度からは、大学院で学習や研究を重ねながら、監査法人では非常勤として働き、公認会計士を目指します。

私は経済に関心があり、その分野での専門性を生かした形で社会に貢献したいと考えていました。その点で公認会計士は、監査業務を通じて様々な企業の内部を財務的な視点から

から見ることができ、座学からは得ることができない視点を与えてくれます。勉学に限らず知識や考え方を身につけることは、私たちが見る景色を豊かにします。

歴史や建築に詳しい人が社寺を見たと感じられるものが多いように、私は経済という漠然とした事象に対して多面的に考えることができるといったと実感しています。

この報奨金制度は、資格の勉強を通して私たちが様々な分野に対する視野を広げるきっかけを与えてくれるのではないのでしょうか。

今後は学部で学習した内容を基礎として、研究と実務を通して専門性を高めていくつもりです。目標に向かう途中には孤独な時間が多く、最終的に頼りにできたのは将来像を明確に描いた自分自身でした。あくまで資格の取得は手段であり目的にはなりません。身につけた知識をどのように活かすのかを考え続けることが大切だと考えます。

編集後記

後援会だよりは次のURLでもご覧いただけます。
<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

会員の皆様の記事についての感想や要望、後援会や経済学部・DS学部に対する要望、ご意見等を郵送又はFAXでお聞かせください。

〒525-2185 彦根市馬場一丁目1番1号
FAX 074927-1132